



万松寺

はくび通信

第 2059号 24



日本における暦のアレコレ （来年の節分は2月2日）

早いもので、街中に来年のカレンダーや手帳がたくさん並ぶ時期になりました。今年も猛暑日や夏日が10月まで続き、その後の寒暖差で体調を崩された方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

そんな気候変動を目の当たりにすると、今後の日本の四季はどうなるのだろうかと思ひ、ふと二十四節気が思い浮かびましたので、今回は暦をテーマにしてみました。

日本の暦の歴史

日本の暦は百済から伝来したとされ、日本書紀に初めて「暦」という文字が確認されています。

当時の暦は「太陰暦」という月の満ち欠けに基づいたもので1年を約354日とするため、実際の季節とのずれが生じやすかったといわれています。その後、月の満ち欠けと太陽の動きを合わせた暦「太陰太陽暦」となり、季節のずれは少なくなりました。江戸時代になると日本の経度に合わせた暦が日本人の手で編さん・改暦されるようになりました。明治時代になると、世界中で広く採用されている「グレゴリオ暦」という太陽暦が、日本の基準の暦（新暦）として採用され現在に至っています。この暦は1年を365日とし、4年ごとに閏年を設けてずれを調整しています。

また、太陽の動きを基にした暦はグレゴリオ暦のほかにもあり、中でも1年を季節の変化で15日ごとに分けた「二十四節気」は、農耕を行う日本では、昔からなじみ深い暦のひとつです。

暦によって変わる行事の日

日本には昔から続く伝統行事がたくさんあります。しかし同じ行事でも暦によって時期が変わります。例えば1年の始まりの日は、新暦では1月1日です。しかし旧暦の1月1日は新暦の1月下旬から2月上旬頃、二十四節気の立春は新暦の2月4日頃というようにずいぶん差があります。

さらに、同じ暦でも行事の日が変わることがあります。例えば二十四節気の暦に基づく節分。偶然にも1985年から36年間立春が2月4日だったので、節分は2月3日でした。しかし、2021年以降の約30年は、閏年の翌年の立春が2月3日になるため節分も1日早まります。ですので、来年の節分は2月2日となります。



暦についてほんの少しのお話でしたがいかがでしたでしょうか？当寺の行事も、その成り立ちや時代に合わせて新暦・旧暦を織り交ぜて行います。次号のはくび通信で年間行事をお知らせしますので、お時間ございましたら足をお運びください。

除夜法会

年忘れ 除厄・家内安全

12月31日(火) 22時～

受付 白龍館2F 白龍ホールロビー

- ◆一口 一万円
おせち料理・破魔矢・暦つき
- ◆一口 五千円
千支絵馬・暦つき



※写真はイメージです

お申込み方法 祈禱受処またはお電話にて承ります。 052-262-0735

住職の小囁



免疫と巡り

季節の変わり目になると、体調を崩しやすいと感じる方も多いでしょう。そのような不調を少しでも和らげるためのポイントとして、大人の寺子屋やこのコーナーでここ数年お伝えしているのが「免疫」です。

西洋医学の免疫

免疫とは、自分にとって悪いものを排除したり攻撃したりして自分を守る仕組みのことで、これがうまく機能しないと不調をきたすとされています。

この仕組みで重要なのが血液成分の白血球です。ですから血液の巡りが悪くなると、免疫機能が下がりがり不調をきたしやすくなるかと考えられます。

東洋医学の免疫

東洋医学には免疫という言葉は明確にはありません。不調をきたすのは、気血津液のバランスの崩れや巡りの滞りにより、外邪・内邪（邪気）が侵入したときと考えられています。

つまり、それらがバランスよく全身に巡ることで免疫のような機能が働くと考えられます。

巡りの重要性

西洋、東洋両医学の観点から見ても、巡りの不調は、身体の不調をきたす原因のひとつなのだろうと私は思います。

例えば、一般的に「肩こり」といわれる症状。2023年のある調査(※)で症状を感じている人は、全体の69.3%に上ったそうです。肩こりの原因は様々ですが、多くの場合は何かしらの巡りの滞り、不調によるものだと私は考えています。つまり、巡りを改善することで肩こりなどの不調の悩みが和らぐのではないかと思います。



巡りの滞りや不調を改善する方法は、食生活、運動、入浴などいろいろありますがこれからの季節にオススメなのは入浴です。入浴は手軽なので、皆さんも行ってみてはいかがでしょうか。

合掌

万松寺住職

大藤 元裕

※株式会社クロス・マーケティング「肩こりや首のこりに関する調査」

これからの行事

2024

12/8 (日) 成道会

お釈迦様が悟りを開かれた日に、偉業を称え報恩感謝の法要を営みます。

スジャータまつり

成道会を祝うと共に、苦行で倒れたお釈迦様を救ったスジャータの功績を称えます。前日の宵山では、奉納された提灯を山車に飾り、18時から速夜法要と点灯式が行われます。当日は、スジャータ姫による牛乳配肖を行います。

12/7 (土) スジャータまつり 宵山



12/31 (火) 除夜法会

新たな年も良い氣に恵まれるよう、除夜の鐘をついていただきます。

2025

1/1 (水祝) 2 (木) 初詣大般若会

身代不動明王、白雪稲荷のご真前にて、大渦のない一年を祈禱する大般若会を行います。

1/2 (木) 3 (金) 正月合同法要

墓地や納骨堂に眠るご先祖様や大切な方に、新年のご挨拶を兼ね追善供養を営みます。

1/6 (月) 初稲荷大祭

白雪稲荷のご真前にて、仕事始めの開運祈禱を行います。

1/11 (土) 昇龍焚き上げ

正月飾りや古い御札、お守りを読経と浄火によりお焚き上げし、併せて凶返しの護摩焚きを行います。

行事・祈禱・供養のお問合せ・お申込みは

祈禱受処 または 052-1262-10735 にて承ります。(年中無休)

葬儀 納骨 法要すべておまかせください

葬儀



ベットの葬儀・骨葬も承ります

納骨



様々なタイプをご用意しております

法要



万松寺納骨堂 お盆合同法要 合同法要の回数券もございます

ご見学随時承ります。お問合せ・ご相談もお気軽にどうぞ

フリーダイヤル イコーナ クヨーニ または 0120-157-942 万松寺総合受処まで

受付時間 9:30~18:00

仏教の豆知識



【如実知自心
〜自らを知ること】

云何菩提 謂如實知自心

この一節は大日経住心品というお経の中に書かれている言葉で、菩提（悟り）とは何かという問いに対して、ありのままの自らの心を知ることと説かれています。ここでいう【ありのままの自らの心】とは、感情や煩惱にとらわれないその人自身が持つ本来の心の姿を指しています。それを知ることとはとても難しいことなのですが、その境地を目指すことが大切だということです。

この一節に書かれている「如実知自心」（によじつちじしん）という言葉について、弘法大師空海は、自らの心と向き合うことで、その心の状態を知り、行いを省みることが大切なのでと教えています。

■誰もが持つ菩提の心

人には、優しく、周囲の物事に感謝して助け合い、導き合う心が誰にでも備わっています。その心の姿こそがその人の持つ菩提の心であり、ありのままの自らの心なのです。

しかし人というものはときに未熟で、負の感情にとらわれて、何気ないことでイライラしたり、嘘をついたり、過ちをおかしてしまふことがあります。また家族や親戚、友人と離れて孤独な環境に置かれた時、誰かが近くにいるというありがたさや心強さに気づいたのに、時が経つにつれ、一度は気づいたはずのありがたさや心強さが薄れて消えてしまうことがあります。その時の心は、本来その人が持っている菩提の心に曇がかかっているのだと思います。そういった時は、自らの心と向き合い、愚かさや気づき、後悔や無念さを経験し、行いを省みることが、本来の菩提の心に近づくことが出来るのだと思います。



■絵本でも感じる仏教の心

仏教の絵本ではないのですが、「葉っぱのフレディ」という、いのちの大切さを子どもたちに教える絵本があります。ここに登場する主人公フレディの親友のダニエルの行いは、仏教の教えに通じる行いを実践し、周りの葉っぱたちを導いているように感じます。

誰よりも賢い彼は、季節が進みやがて秋が訪れ、周囲も自分も枯

葉へと変化し、最後は大地へ落ちていくのだということをフレディに教えます。自分の最後に恐怖を感じる友達に、どんなに大きくても小さくても、弱くても強くてもすべてのものは変化するのだと教えました。彼はその後、変化を受け入れてその時にやるべきことをやるのだと、最後まで友達を導きながら生を全うしました。

この時のダニエルの教えは、仏教でいう「諸行無常」すべての万物は常に変化し不変のものはないという教えと「如実知自心」自らと向き合うことの実践に通じているように思います。



人は後悔や無念さを抱いているときほど、何物にもとらわれずにあるのままの自らを受入れるのは難しいのかもしれない。そんな時は、ひとり抱え込まずに周りに目を向けてみてください。あなたが持つ本来の優しい心に気付いている人が、あなたを導いてくれるかもしれない。また万松寺の仏教講座で心を落ち着けることでも、少しは気持ちが軽くなるかもしれません。

周りの物や人を大切に作る行動は、巡り廻って自分に返ってきます。まずは当たり前のことを当たり前とは思わずに、一つ一つの事に感謝して日々の生活を送ってみてはいかがでしょうか。

合掌

今後の御朱印

限定御朱印

- 12月8日〜
- 成道会限定御朱印
- 四季の限定御朱印冬



「四季の限定御朱印 冬」イメージ

月詣御朱印

- 12月
- 必勝成就

限定印

- 12月1日〜8日
- スジャータまつり



授与所 WEB



大人の寺子屋

〜万松寺住職との
気楽なお茶会〜



講師

万松寺住職 大藤 元裕

開催日

12月8日

時間

10時半〜12時

参加費

300円
(お抹茶・お菓子付き)



万松寺の仏教講座

12月

坐禅会

1、8、15、22、29日 9時〜10時

写経会

14日 16時〜17時半

写仏会

7、21日 16時〜17時半

仏教勉強会

22日 16時〜17時半

参加費

500円



※急な行事などにより、日時・会場の変更や中止となる場合があります。

この「はくび通信」ご持参にて
1回無料でご参加いただけます

お申し込み・お問合わせ

WEB

万松寺学び舎

電話 052-262-10735

検索

万松寺日記

秋彼岸
合同法要

秋期
不動明王大祭

令和6年9月23日(月休)

令和6年9月28日(土)

彼岸(浄土)と此岸(現世)が近
くなると思われる彼岸の時期に、追
善供養を営みました。

身代不動尊のご真前にて災難消
除、病氣平癒、無病息災、身体健全、
交通安全、家内安全の祈禱を行
いました。



絆画展

令和6年10月11日(金)

13日(日)

大村順さんの描く「絆画(きずな
え)」の展示会が開催されました。
会期中は作者の大村さんも在廊さ
れ、ご来場の方々と絆画について
思いを語られました。

初詣大般若会

正月元日(水)2日(木)
10時~16時

受付時間: 9時半~15時半

場所: 不動堂・稲荷堂
受付: 白龍館4階

大般若 一万円

大般若札・破魔矢(大)・身代わり餅・曆

祈 禱 五千円

御札・破魔矢・身代わり餅・曆

祈 願 二千円

御札・干支絵馬・曆

御供物 御供え餅(献餅) 三千元/一升 大ローソク 千円 中ローソク 五百円

当日のご来寺が難しい場合はご不参としてご祈禱を行い、御札・御供物などは送らせていただきます。お申込み時にその旨をお伝えください。

初稲荷大祭

1月6日(月)
11時~14時

受付時間: 10時半~13時半

場所: 稲荷堂
受付: 白龍館4階

大般若 一万円

大般若札・破魔矢(大)・身代わり餅・曆

祈 禱 五千円

御札・破魔矢・身代わり餅・曆

ご祈禱後、粗食を召し上がっていただきます。
※状況により、お持ち帰りいただく場合がございます。

商
売
繁
盛

昇龍焚き上げ

令和7年 1月11日(土)

17:00~(受付 16時半~17時半)

会場: イベントスペース
(受付: 総合受付前)

護摩祈禱

個別加持祈禱付

左義長(どんど焼き)

特別護摩

小正月に護摩木に願いや供養の気持ちを込めて
お焚き上げし、読経と煙で仏さまに届けます。

凶返し「吉祥護摩」凶みくじをひいた方限定

護摩木に結ばれた凶みくじの厄を落として吉運を
呼び込む「開運御守」を授与いたします。

護摩木奉納料: 一体 500円 ※一部護摩木除く

しめ縄飾り、古い御守・御札などをお焚き
上げし、無病息災・家内安全などを祈禱
します。お焚き上げするものを、当日18時
までにご持参ください。

参加特典

護摩祈禱に参加された方には浄化
で調理した「焼き芋」を進呈。
(数に限りがあります)